

脱炭素・サーキュラーエコノミーを加速させ、エンボディドカーボン削減に貢献

リサイクルアルミ使用比率 100%アルミ建材「Re・AL」が賃貸集合住宅に初採用

東京建物の「（仮称）南千住一丁目プロジェクト」において、環境配慮型建築を推進

YKK AP 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：魚津 彰）のリサイクルアルミ使用比率 100% アルミ建材「Re・AL（リ・アル）」が、東京建物株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 社長執行役員：小澤 克人）が進める新築賃貸集合住宅「（仮称）南千住一丁目プロジェクト」に採用され、昨日 8 月 27 日から建築現場への納入を開始いたしました。新地金を使用せず 100%リサイクルアルミを使用することで、新地金を製錬する際のエネルギー消費を抑えた「Re・AL」の採用により、建設時の CO₂排出量（エンボディドカーボン）の削減や、建物の環境価値向上に貢献します。



（仮称）南千住一丁目プロジェクト



納品されたアルミ建材「Re・AL」

■採用の背景

世界的に脱炭素への取り組みが加速する中、建築業界では建物の運用時（オペレーショナルカーボン）にとどまらず、建材の製造・輸送・施工から解体・廃棄に至る建物ライフサイクル全体の CO₂排出量（エンボディドカーボン）を削減する取り組みが不可欠になっています。

YKK AP では、リサイクルアルミの使用比率向上を目指しており、2025 年 10 月からリサイクル使用比率 100%で製造した「Re・AL」の展開を開始しています。「Re・AL」は新地金も使用する弊社の既存のアルミ建材と比べ、ライフサイクルを通して CO₂排出量を 73%削減します。

そしてこの度、東京建物グループのマテリアリティである「脱炭素社会の推進」と「循環型社会の推進」への寄与を背景に、環境負荷低減と高品質な住環境の両立を目指す両社の想いが合致し、賃貸集合住宅において初めて「Re・AL」の採用が決定しました。本プロジェクトでは、「Re・AL」を使ったビル用防火窓「BGE 31」シリーズ約 160 セットを納品し、物件全体で弊社既存商品比約 70%（約 10t）の CO₂排出量削減（※1）に寄与します。

■「Re・AL」概要

社内の製造過程で生じる端材（社内リターン材）と、異物や合金成分が異なるアルミを選別・除去した市中リサイクル材のみを使用した、リサイクル使用比率 100%の窓やカーテンウォールなどに使用されるアルミ型材（第三者検証の環境製品宣言「SuMPO EPD（※2）」取得）です。新地金のみで製造した場合と同等の品質・機能を有しながら、新地金 100%製品比で CO₂排出量を 85%削減できます。そのため、「Re・AL」を採用いただくことで、建材の環境への影響を定量的に示すことが可能になり、建物の環境価値向上と製造時の CO₂排出量削減に貢献します。

「Re・AL」詳細：https://www.ykkapglobal.com/ja/newsroom/releases/20251031_2

■ 物件概要

物 件 名：（仮称）南千住一丁目プロジェクト

竣 工：2027 年 8 月（予定）

施 主：東京建物株式会社

構造・規模：鉄筋コンクリート（RC）造・地上 14 階

用 途：新築集合住宅（賃貸）

※1：2025 年 10 月 31 日時点の「SuMPO EPD」（第三者検証の環境製品宣言）にて認証済みの数値で算出

※2：「SuMPO EPD（旧名称：エコリーフ）」は、一般財団法人サステナブル経営推進機構が運営する LCA（ライフサイクルアセスメント）手法を用いて製品のライフサイクル全体（原料調達から廃棄・リサイクルまで）にわたる環境負荷情報を定量的に開示する環境ラベルです。「Re・AL」はこの第三者検証を取得しています。（<https://ecoleaf-label.jp/epd/2271>）